

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第 5 号 平成22年 4月 4日

哲也今期チーム初猛打賞 全員安打達成にヨンドンプレーキ・・・

乱調達脇をチーム一丸で、勝利投手へ！



4 / 3 (土) 今期初のKSC大会初戦を、俣野球場に東京Brother'sを迎え行った。我がチームは先攻、初回の攻撃、先頭佐藤が、死球で出塁、その後2盗、2番が倒れるも3番深沢へ。佐藤が3盗を試みるも、ヘッドスライディングは、ベース手前5mで失速。二死ランナーなしに。しかし、深沢は、中前に落し、その後2盗。まだ先制のチャンスは繋がっているかに見えたが、本日唯一の三振を4番ヨンドン浅沼が、三球三振で、先制のチャンスを逸してしまった。先発は、今期2試合目の達脇、終わってみれば、良かったか悪かったのか分からない内容であった。6回まで投球数130、被安打9、三振9、四死球5、WP1という内容であった。初回到失点するも、2回から4回までは0行進を続ける。3回表の攻撃、1番から3番までの連続安打で2点を挙げ、逆転に成功。4回には智が掻き回し、5回には、江越の犠打で1点づつ得点し、安全得点差になったかに見えた。しかし5回に動いた。相手1番から5番まで、安打・四球・エラーにより、2点を返され、6回には、9番から3番まで安打と四球で1点を譲渡し、その得点差は2点に。しかし、この時の時間は終了予定時間の10分前を過ぎ、利用時間ぎりぎりになっていた。審判と相談した結果、次打者を最終バッターとし、ゲームを再開。状況は、一死満塁。一発長打で、さよならの場面、ベンチ主将の支持は、外野を下げ、大量得点を防ぐ策に。最終バッターの打球は、遊ゴロに、その間に1点を譲渡したが、ここでゲームは終了した。今日のゲームを振り返ってみると、外野の頭を越された安打は、1本だけ、ポテンヒットが多かったように感じる。しかも野手が手に届きそうなどろろに上がった打球であっただけに、ポジション取りで何とかカバー出来なかったであろうか？また、チームエラーの記録は1だが、記録にならないシーンも何度かあった。エラーは、起きてしまった結果であるので、致し方ない面も有るが、やはりグラブの中に一度入れたボールは、きっちり捕球し、アウトカウントを増やしたい。また、守備・走塁に関しても、自身で判断し、アウトに成り掛け、はたまた余計な進塁+失点というシーンもあった。この辺はその場の状況判断及び周囲のフォローにより防いでいけるはずである。何はともあれ、今期初のチーム打率4割超えが、今日の勝利の要因であろう。まだ、打席で考えすぎてしまっているメンバーも入るが、ボールを見極め、好球を打つだけ、という前監督@那須が言っていた言葉のとおり、結果は後から付いてくるはず！ それにしても運も味方に付け、3連勝、この連勝をまだまだ増やして行きましょう！！！！